災害エスノグラフィー演習　体験談

Ａさんのケース

【基本情報】

年　　齢：68歳

居住地区：岡山県倉敷市真備地区

家族構成：ご主人と二人暮らし（敷地内の別棟に息子さん夫婦が住んでいた）

当時の立場：民生委員

避難行動：水平避難（真備総合体育館⇒小学校分館）

自宅被害：全壊

住所地のハザードマップ上の危険：洪水による浸水５ｍ程度

避難行動要支援者の該当の有無：なし

7/5 18:30　岡山地方気象台が【大雨警報】を倉敷市に発表

19:40　岡山地方気象台が【洪水警報】を倉敷市に発表

私は社会福祉協議会で役員をしておりまして、6日(金)は社協の研修で、朝からバスで出かけていたんです。そこで、避難勧告【※タイミング的には避難準備、高齢者等避難開始情報(土砂災害)と思われる】のエリアメールを見ました。それから、夕方4時頃には帰ったんですよ。バスの乗客はみんな同じような地区の人ばかりだから、エリアメールが入っているというのは見ていました。すごい雨が降るから、本当だな、という感じでした。でも、エリアメールが出ているなというぐらいかな。そのとき、雨はすごく降っていました。降っていたけど、エリアメールが出ているなというぐらいで。

川は氾濫したことはないのですが、この辺りは必ず浸かるんです。昔から。この、旧国道沿いが。だから、またここらへんが浸かるんだろうなと思っていました。

昔は田んぼばっかりで。今はあれだけ住宅が建っていますけど、私はここで生まれた人間なのでわかりますが、昔からここはずっと浸かるんです。近くに用水の排水ポンプがあって、この川に流しているんです。昔水が浸かったのは、このポンプが壊れているのが原因だったという話を聞いていたんですよ。そのポンプも、その後直したから、最近住み始めた人は、浸かるというイメージがなかったんです。

それから、夕方の６時半頃、一応、避難勧告【※避難準備情報】が出ているのをエリアメールで知っていましたので、避難している人がいるのかな？と、私は地区ですから、小学校の体育館に行ってみました。そうしたら、誰も避難している人がいなくて、市の職員さんが2人受付にいただけでした。それで、誰も避難していないので大丈夫だと安心して家に帰りました。指定避難所となっている小学校は家のすぐ近くですから、開設したと聞いて見に行ってみただけで、まさか、こんな大災害になるとは、雨が降っていても思ってなかったです。

自宅に帰るとき、その時はまだ道路が冠水しているわけでもなく、ただ、雨はいつもより強いな、すごく降り続くな、とは思いました。ですので、いくらかは、いつもと違うな、と感じていました。普段だったら夜10時頃には寝ていますが、テレビで、雨のことを報道していましたから、やっぱり気になるのでパジャマを着ずに、服を着ていました。

夜の7時か、8時か、9時か、雨はすごく降っていて、防災無線で何か言っているみたいだったので窓を開けたら、雨の音が強くて、防災無線は何も聞こえなかった。それで、近くの川を何度も土手に上がって見に行きました。

22:00 倉敷市が【避難勧告】発令 真備地区全域に発令（洪水警戒）

22:40　岡山地方気象台が【特別警報（大雨）】を倉敷市に発表

私はここで生まれ育っていますから、川の水位というものはいつも気にしているので、雨が降ると必ず、土手に上がって見ていました。今回も一時間ごとぐらい、土手に上がって見ていました。時間ごとに、水位がどんどん上がってくる。こんなに上がってくるのは初めてでした。

7/7 00:00　倉敷市が【避難勧告発令】川の水位上昇が続き越水した

場合に立ち退き避難が必要な方を対象に発令（洪水警戒）

00:00頃　川右岸(西側)決壊

そして、夜12時頃、自分が住んでいる地域の反対側にある西側の堤防が決壊するのを見たんです。決壊したところから流れ出た濁流で、家がダーッと流されていきました。時計は見ていないのではっきりとした時間はわかりませんが、おそらく夜12時前後です。

一緒に見ていた主人は、向こう側が決壊したら、もう、こっちは決壊しないだろうと思っていたようです。だから堤防にいるときに、家の2階にいれば大丈夫だろうということを、この辺にいる人とみんなで話をしていたんですよ。近所のおじさん連中みんなで、「2階におろうな」ということで。夜中に土手に、人がいっぱいいました。

そのときは、わりと小雨になっていたと思うんですよ。小雨になったり強く降ったり、断続的に降ったり止んだりしていました。だから、夜12時ぐらいに逃げようと言った時にはそんなに雨は降っていなかったように思います。

夜12時頃に土手に上がった時には、そんなに雨は降っていなくて、逃げようとはそれほど思っていなかったんです。でも、息子のお嫁さんは、ちゃんと毛布も持ってきていて、「やっぱりお母さん逃げようよ」と言って。携帯の充電器も用意していました。私は何も持っていなかったんですよ。逃げようと言われて、何を持って逃げたら良いの？という感じで。でもまあ、明日帰ってくるから別に良いかと。

夜12時頃、既に、小学校はいっぱいだという情報は入っていたので、しょうがないから、クリーンセンターか、総合体育館に行こうかということで、総合体育館に逃げました。

民生委員ですので、避難行動要支援者名簿だけを持って行きました。結局、全然役に立たなかったけどね。避難所に行けば私の担当している人が避難していて、安否確認ができると思っていました。バックに要支援者名簿だけ入れて、次の日は帰れると思っていたから、その他には何も入れていなかったんです。

私と、息子の嫁さんと孫2人で避難する時に、近所にまだ人がいたから、「川の向こうは堤防が切れて危ないよ。家が流されてしまっているよ」と、近くの人だけに声をかけて。まだパジャマを着ている人もいましたよ。「どこに逃げるの？」と言っても「どこかわからん」と言いながら、こうして、みんな総合体育館へ逃げたわけです。

どうやって声をかけたのかは、はっきりとは覚えていないんですが、「危ないよ。私は逃げるよ」というような感じで声をかけました。声をかけられた相手は、それはもう、びっくりしていました。パジャマを着ている人もいましたからね。誰も避難が必要だと、そういう状況だとは思っていなかったわけです。

私たちが避難するときには、近所の人には声をかけたけど、要支援者名簿に載っている方には声をかけられなかった。私もこんなことになるとは思っていなかったから、連絡をしていないんです。だから、後から考えれば、避難準備が出た時に、避難してくださいと電話をかけなければいけなかったんだなと。それを全部している人もいました。自分の担当地区の民生委員に、みんなに連絡をしてくださいと言って。私はそれができなかったんです。それこそ、こんなことになるとは思っていなかったから。今まで大きな災害がなかったから、今までと同じように何もなく済むとしか思っていなかった。

要支援者名簿に載っている人とは、日頃、やり取りと言いますか、地域の中の人ですから話をすることはあります。例えば、倉敷市が要支援者名簿に載せても良いですか？というハガキを送って、そこに○をつけて返信をした人が載るのですが、返信が何もない人については、民生委員が個々に歩いて尋ねるんですよ。「こういうハガキが市から来ていますけど、お返事していないですね。どうされますか？」という感じで。その時に、「ああ、忘れてたわ」という感じで言われて、「じゃあ、ここに名前を載せたら、助けに来てくれるんか？」というから、「いえいえ。私は助けに来ないから自分で逃げてよ」という話はします。「全員を助けに歩けないからね」という話をします。私の地域は他所から来て家を建てた人がたくさんいるのですが、その人達は、「私はこの辺のことがわからないから、どこに逃げたら良い？」と聞くから、小学校だけど遠いから、老人福祉センターがあるから、そこに逃げたら？という感じで。二人暮らしでも元気な人や、一人暮らしでも元気な人は同意しませんというところに○をつけるから、名前は載っていません。

日頃から一人暮らしの方には民生委員が訪問していますから、話をいろいろしています。でも、今回みたいな夜中に被災した場合、広い範囲を担当しているので、すぐに行くことができない。私の担当の一人暮らしの人は、決壊した場所の付近に住んでいる人が居るんですよ。でも、ご近所の人が、一人暮らしをされているということでいろいろ日頃からお世話をしてくれていたので、今回の災害時にも、ちゃんと、一緒に逃げようということで、連れて逃げてくれていたんですよ。そういうこともあるので、一人暮らしの、ちょっと足が不自由な人がいるというような時には、民生委員がその家まで行けないから、近所の人に頼んでおくというのは、良いことだなと思いました。

そういうふうに、支援が必要な方のご近所で仲良くしてもらっていたことは、よかったですね。いつも訪問していたからといって、毎回会えるわけでも無いですからね。今、入院しているのよ、と近所の人から聞いたりもします。普段から近所の人とうまい具合に繋がってもらっていたことが良かったなと思います。

夜の12時頃、真備総合公園の体育館へ避難する時は、お嫁さんの車で行きました。私も自分の車に乗ったんだけど、「お母さん、駐車場がいっぱいになるから、一緒に行きましょう」と言ってくれて。お嫁さんが、ちゃんと息子に連絡もしてくれました。あの時、土手にいた人たちは、あっちが切れたら、もうこっちは切れないと、みんな言っていたんですよね。反対側の堤防が切れて、水位はどっと減りましたから。土手のギリギリまであった水が、どっと減りました。だからそのとき私は、こっちには来ないだろうけど、避難しておこうということで、真備総合公園の体育館へ。お嫁さんが行こうというから。

車で家を出ようとしたら、近所に用水がたくさんあるんですが、その用水がもういっぱいになっていました。道と同じぐらいの高さまで水がいっぱいで。その水で靴が濡れるぐらい。道と用水の境目が見えなくなるぐらいまで増水していました。

夜10時ぐらいから夜12時ぐらいで、まだ家にいる時に、下（しも）から、上（かみ）にたくさん車が夜中に行っているのを見ました。「みんな、避難しているな」という感じ。

家を出る時には道に少しは水が溢れていましたけど、避難所へ向かう道は高くなっていますから。私の近くにあるゴミステーションは、海抜10.5メートルと書いてあるんですが、小学校は21.5メートルでそれだけの高さがあるんですよね。車に乗っていたら、そんなに気が付かないんですけど。

自分たちが避難した12時頃は、まだ渋滞してなかったですね。駐車場もまだ空いていました。体育館がまだいっぱいになってなかったんですよ。到着してすぐは、10人か、20人か、そのぐらいだったんです。だから毛布とか敷物はまだ貰えたんです。その後どんどん避難してきて、みんなびしょ濡れになって、次から次にやってきて、体育館の出入り口はびしゃびしゃでしたね。

その時はまだ、自宅がある川の東側が決壊するとは思っていませんでした。

01:30 倉敷市が【避難指示（緊急）】発令 川北側の真備地区(洪水警戒)

主人はと言うと、「もう帰って2階に上がって寝ればいいや。テレビで2階に上がっておけばいいって言ってたから」と。「あんたら、一応、避難し。もうええ。2階に居るから」と私らに言って、主人は避難しなかったんです。2階に布団を持って上がって寝る用意をしていました。

それでも、後から息子が電話で説得して、「逃げないといけんよ」と言ってくれて、私たちとは別に、トラックで逃げました。クラウンは水没ですよ。トラックで逃げたから。主人も普段着でスリッパ履き。明日帰れると思って、何も持たずに。それで、今どこにいるの？と連絡があったから、総合体育館へ避難していると言って、だいぶん遅れて来ました。

あとから聞いた話で、ずっと逃げずにいた人たちは、深夜2時ぐらいに警察の人が来て、こっちも切れるから危ないから逃げなさいよと言われたので、岡田小学校に逃げたという話で、だからこっち側（東側）の堤防の人は、亡くなっていないんです。先に決壊した西側では、5人亡くなったんです。

今だから避難準備段階で逃げなさいよと言えるんだけど、当時はこういう状態になるとは思わないから、連絡をしていなかったんです。後から聞くと、この亡くなった人達は逃げていたんですよ。でも、一旦、家に帰って貴重品を取りに帰っていたんです。この方はご主人が1ヶ月ほど前に亡くなって、まだ49日もしていないのでお骨とか遺影とかそういう物を取りに帰っていた、その時に決壊したんだということでした。息子さんも一緒に逃げる準備をしていて、息子さんは若いから何かにつかまって助かったけれども、その人は流されて亡くなったそうです。

若い人はやっぱりみんな逃げようとしているんです。同居をしているお母さんに、一緒にお母さん逃げようと言ったけど、私は逃げないと言われたそうです。「私はこの家を守るから、あんたらだけ行き」と。その時は、まさか水没するとは思っていないから。そこの家族はお母さんを置いて娘さん家族は逃げたんです。それでお母さんが亡くなられました。

もう1人も、すぐ隣に息子さんが住んでいて、2階建ての息子さんの家においでと言われても、行かなかったそうです。もし避難していれば。あとから聞いた話ばっかりなんですけど。

2階まで水が浸かっている家の2階に人が避難しているのを、見たんです。その人は知っている人だったから、総合体育館に避難してから、市の職員さんに、その人を助けに行ってあげてとお願いしたんです。それでどこですか？と言われて、その時は、要支援者名簿があって助かったんですけど、要支援者名簿をみて、「この人です」って言ったんだけど、よく考えてみたら、そんなこと言ったって、誰も助けに行けなかったんですよね。その時点では。

07:00頃　川左岸(東側)決壊

次の日にバスが来て、「第一福田小学校、第二福田小学校に移動してください、バスに乗ってください」と。「ここには居られないんだ」と思って、みんな乗っているのですが、私は家が気になるから、第二福田小学校はどこにあるのかわからないけど、主人のトラックでバスについて行きました。そうしたら、途中、家がすっぽり浸かっているのが見えたんです。家はあるけど、全部水に浸かっていました。ここからみて、家の前の家が無い、こっちの家も無い、というのが見えました。まだすごい水がザーッと流れていて。

自分の家のことが気になってしまって。「どこかわからん第二福田小学校へ避難できない」と思い、次の日に帰ってきました。やっぱり知らないところには、行けません。他所へは行きたくないです。一緒に体育館にいた人は、知らずにバスに乗って後から大変だったと聞きました。

それで、最初に避難した小学校の横に分館がありまして、分館長は民生委員をしている方だし、親しいから、すぐ電話をして「どうなの？空いているんだったら、ちょっと入れて」と言ったら、「Ａさんの言うことじゃけ、聞くわ」という感じで、受け入れてくれました。空いているところというか、知っている人のところ。ここの分館は、障害者の方が避難している所だということで、分館長さんはずっと寝ずにお一人で。ぶどうの家という認知症や障害のある方の施設の方を、小学校に連れてきていたので。この人達は小学校の2階の教室には無理だということで、この分館なら、一応、障害者用のスロープやトイレもあるので。

分館長さんはずっと寝ずにお一人で大変だったので、手伝ってくれるならここに泊まってもいいよと言ってくれて。その代わりちょっと世話を手伝ってよと。男性一人で、トイレも使えないから、大変でしょう。せっせと給水車から水をトイレのタンクに入れるとか、障害者だからトイレを流せなくて、それを流すとか。そういう世話をしながら。

3日目ぐらいになってやっと、通れる道からぐるっと回って、自宅に戻ってみると、水でびちゃびちゃです。あの頃はまだ長靴もなかったから、運動靴で砂の山の水の中を入って。家に入るまでは大丈夫と思っていたけど、ひどかったです。大丈夫だと思っているのがおかしいのですけどね。

自宅を見に行って、やっぱりおかしいんですけど、水に浸かっているけれども家の中は大丈夫ぐらいに思っていました。今となってみれば、テレビで、冷蔵庫がひっくり返ったり、家の中のものが全部ひっくり返ったりしているのを見ても、「そうそう、そうなるんじゃ」と理解できるけど、その時は理解できなかったんです。

冷蔵庫もタンスもそのままで水に浸かっていると思っていました。水が引けばそのまま生活ができると。でも、3日ぐらい経って水が引いてきたので、自宅を見に行きました。自宅は決壊現場付近だったこともあり、家の中が砂の山だったんです。どの部屋も砂。そこに畳があって、砂の山を歩いたら頭は天井につく。鴨居に頭をがんとぶつけるぐらいです。どこの部屋も。冷蔵庫も何もかも全部。

全壊です。とりあえず家はありました。お隣の家もほとんど傾いています。東側の決壊したところのすぐそばですから、私の前の家はものすごく大きな家だったのに、もう何もなかったです。そこがもう海になっていました。こんなにえぐれて。

ハザードマップを見て、自分の地域が浸水することは把握していたけど、あれは津波だと思っていた。私は。地震が起きて津波がきたときのものだと思っていた。雨が降って川が決壊するとは思っていなかったんです。

反省点としては、避難勧告とか避難準備情報が出た時には、民生委員の私は、要支援者名簿を見て足が悪かったり、その人の状態を知っているわけだから、そういう人から順番に電話をして避難すればよかった、と。そうしたら時間があるから。避難勧告が出た時にはその後の人に連絡が。やっぱり連絡をしておけば良かったなと思います。

でも、お年寄りの方は頑固なんですよ。若い人はあまり亡くなっていないでしょう。後から高齢者の方と話をすると、「うちのおじいさん８２歳になるけど、『８２年間大丈夫じゃった。逃げんでもええんじゃ。』と言って、絶対に逃げてくれんかったんじゃ。そう言って夫婦２人で２階に居ったんじゃ。」というようなことを言われますから。逃げようと言っても、逃げない。あとで救助されたそうです。

以　上